

バス交通に関する社会実験調査（案）

1 目的

全市的には、駅を中心とした交通体系が定着しており、乗り継ぎ性や南北間交通の向上等、駅周辺部における交通機能の向上が課題となっている。

このため、新たなバス路線等の検討に向けて、住民ニーズを把握するとともに、課題等の調査、分析を行い、バス実証運行に向けたプランを検討する。

2 新しいバス路線の導入に関する計画の作成

江別市内における新たなバス路線の検討に向けたバス実証運行実施について、本業務内において実施する沿線住民へのアンケート調査及びバスOD調査結果、住民意見交換会を踏まえ、実証運行の実施体制や、運行概要等に関する基本事項を整理する。

なお、計画作成にあたっては、バス事業者や有識者等が参加する江別市地域公共交通会議での協議により、具体的な仕様を検討する。

新しい路線の導入に関する計画の整理事項

①実施体制

- 運行主体
- 費用負担
- 運行事業者（道路運送法上の根拠）

②運行概要

- 実証運行期間
- 運行経路
- 運行ダイヤ/便数
- 運賃
- 使用車両
- 運行車両表示

③その他

- 運行事業者選定方法

3 新しいバス路線に関するニーズ調査等

(1) アンケート調査

新たなバス路線等の検討に向け、現状におけるバスの利用実態や新たなバス路線へのニーズなど把握するべく、沿線住民に対するアンケート調査を実施する。

調査項目

①属性

- 性別
- 年齢
- 居住地
- 職業・就業の状況
- 世帯構成
- 保有する運転免許証
- 世帯の自家用車保有状況
- 運転する年齢

② 普段の移動実態(通勤・通学/通院/買い物/その他)

- 目的地
- 移動手段
- 季節による移動手段の変更
- 移動手段選択の理由
- 頻度
- 時間帯

③ バス路線が新設された場合の利用意向

- 利用意向
- 利用目的
- 頻度
- 時間帯
- 利用しない理由
- 利用する場合の条件

④ 交通に関する意識

- 自動車利用抑制の行動意図
- 自動車利用抑制の知覚行動制御
- バス利用の行動意図
- J R利用の行動意図
- 徒歩・自転車利用の行動意図

アンケート調査票等作成において作成した調査票を用い、新たなバス路線の沿線と考えられる地域に対し、アンケート調査を実施する。

アンケート調査の対象世帯の抽出条件は、バスOD調査実施の結果から、多数の利用が見込まれる属性を抽出し、その対象属性が含まれる1,000世帯に対し、郵送にて配布を行う。回収は、返信用封筒による郵送し、調査票は、1世帯につき、最低3部配布する。

(2) バスOD調査実施

現状、野幌駅北側の地域から野幌駅へのアクセス手段として沿線住民に利用されていると考えられる、北海道中央バス運行の江別錦町線及び江別4番通線において、その利用実態を把握すべく、バスOD調査を実施し、調査結果の取りまとめを行う。

(3) 住民意見交換会の開催

路線バスでの野幌駅や病院等へのアクセス、江別市内の南北間移動のニーズなどを把握する目的で、住民との意見交換会を開催する。

意見交換会は、野幌駅へのアクセス性に課題があると考えられる江別錦町線及び江別4番通線の沿線地域と、病院等へのアクセス性に課題があると考えられる野幌駅南側地域の2地区において、各2回(計4回)開催する。

(4) 実証運行に向けた課題の抽出、計画の検討

前項までの調査結果から実証運行に向けた課題の抽出と対策案の検討を行い、既存の路線バスの改編も念頭に置いた新たなバス路線の運行計画を検討する。

4 スケジュール

	時期	計画の立案	新しいバス路線に関する ニーズ調査等	備 考
6月	上旬			
	中旬			
	下旬			
7月	上旬			
	中旬			
	下旬			
8月	上旬	工程計画・作業方針についての 実施計画書の作成		
	中旬			
	下旬			
9月	上旬	新しいバス路線の導入に関する 計画の作成	アンケート調査 票等作成	
	中旬			
	下旬			
10月	上旬			バスOD調査 実施
	中旬		アンケート調査 実施	
	下旬			
11月	上旬			
	中旬		アンケート調査の 集計・分析	
	下旬			
12月	上旬			住民意見交換 会の開催 (計4回)
	中旬		実証運行に向け た課題の抽出、 計画の検討	
	下旬			
1月	上旬	新しいバス路線の導入に関する 計画の作成		
	中旬			
	下旬			
2月	上旬			
	中旬			
	下旬			
3月	上旬		報告書作成	
	中旬			
	下旬			